

平成17年梅雨前線出水におけるダムの洪水調節について

1. 平成17年梅雨前線出水では、奥越地方において、下記の降雨を観測しました。

九頭竜ダム（長野）観測所	総雨量	約167mm
	最大時間雨量	約25mm
真名川ダム観測所	総雨量	約119mm
	最大時間雨量	約19mm

2. 九頭竜ダムでは、今年に入って初めて洪水調節（洪水をダムに貯め込む操作）を実施しました。

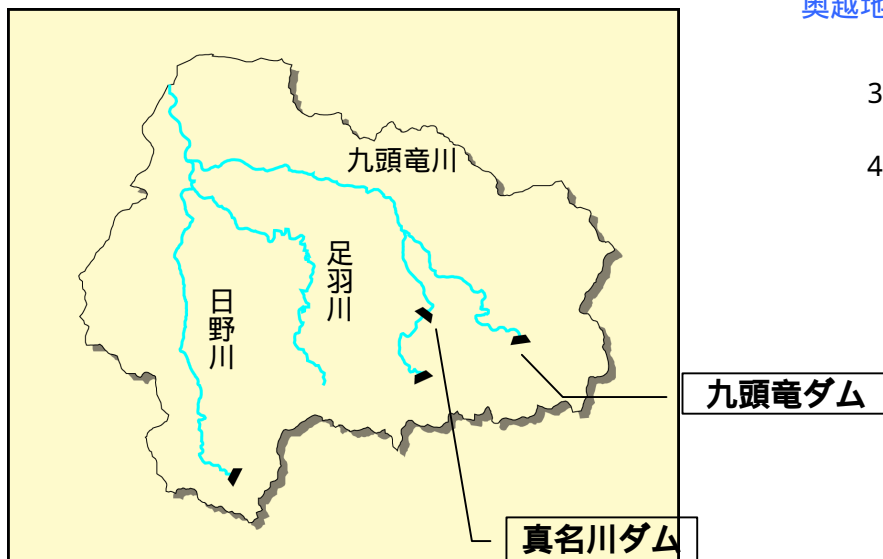
九頭竜ダム	最大流入量	約350m ³ /s
	雨の降り始めの水位（3日15時）	標高 約549.3m
	最高水位（4日14時時点）	標高 約551.0m
真名川ダム	最大流入量	約230m ³ /s
	雨の降り始めの水位（3日15時）	標高 約347.3m
	最高水位（4日10時）	標高 約349.9m

3. 参考資料

ダムの洪水調節グラフ
各ダムの諸元
用語の解説

データはすべて速報値です。(4日14:00時点)

位置図



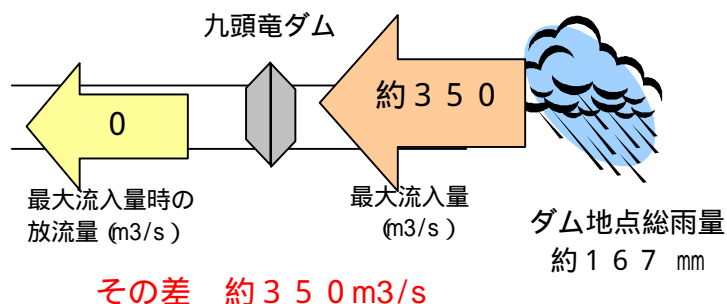
奥越地方の注意報・警報

3日 11:52
大雨 洪水 注意報発令
4日 4:05
大雨 洪水 警報切替

ダムによる洪水の調節

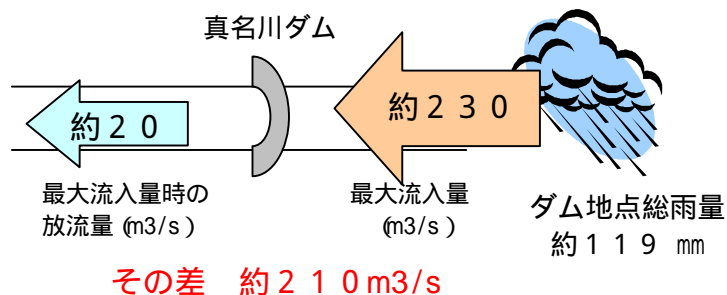
九頭竜ダム

九頭竜ダムでは、最大流入量約350 m³/s に対し、そのすべてをダムに貯留することにより洪水を調節しました。



真名川ダム

真名川ダムでは、最大流入量約230 m³/s に対し、約20 m³/s の放流を行い、その差約210 m³/s をダムに貯留しました。



参考資料

ダムの洪水調節グラフ

別 添

各ダムの諸元

九頭竜ダム（国土交通省）

河川名	： 九頭竜川	完成年	： 昭和43年
堤高	： 128.0m	集水面積	： 184.5km ²
目的	： 洪水調節、発電		
洪水調節容量	： 33,000,000m ³		

真名川ダム（国土交通省）

河川名	： 真名川	完成年	： 昭和54年
堤高	： 127.5m	集水面積	： 223.7km ²
目的	： 洪水調節、発電、不特定用水の確保		
洪水調節容量	： 89,000,000m ³		

用語の解説

《用語の解説》

【ダムの洪水調節】

上流から流れ込む洪水の一部をダムに貯留し、下流の洪水被害を軽減させるダム操作のこと。ただし、ダムの能力を超える大きな洪水が流入した場合には、ダムへ流入する洪水をそのまま下流へ流す。この場合でも、流入する洪水以上の流量を下流へ放流することはないので、ダムによって洪水が起こることも、また、ダムによって被害が大きくなることもない。

【洪水調節量】

流入量から放流量を差し引いた流量をいう。

【洪水調節容量】

洪水調節に使用する容量。（通常、空^{から}となっている。）

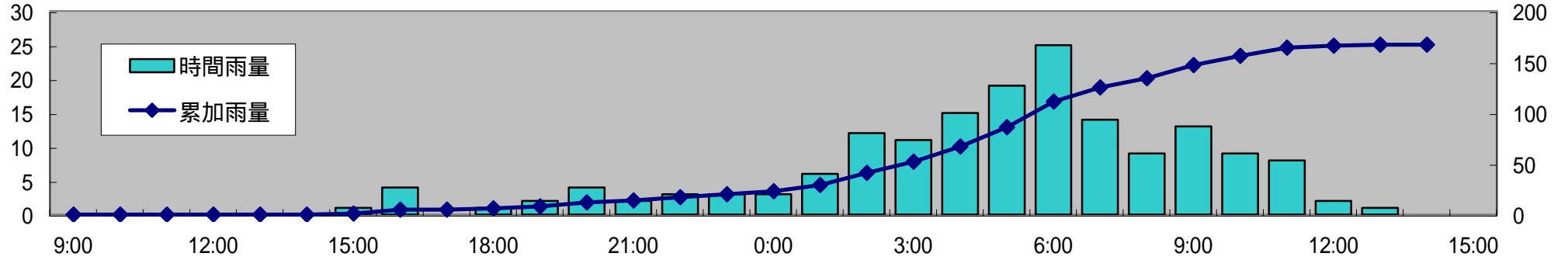
【流域】

降雨が地表や地中を通して、その河川に流れ込んでいる全地域のこと。

九頭竜ダム (長野 観測所)

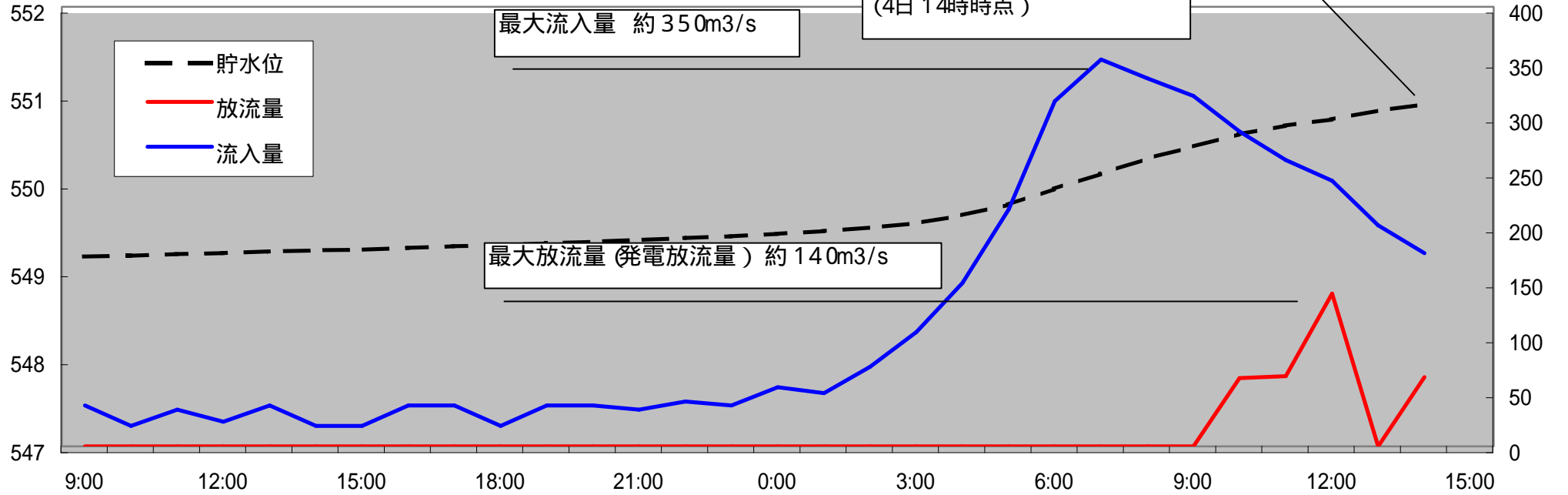
時間雨量 (mm)

累加雨量 (mm)



貯水位 (標高m)

流量 (m³/s)



平成 17年 7月 3日 ~ 4日

